

新年度にあたって ～近況のご報告～



参議院議員・薬剤師 本田 顕子

桜色が爽やかな風に舞い街中を彩る季節の訪れとともに、マスク着用をはじめ、新型コロナウイルス対策の段階的見直しが始まっています。

昨夏から大臣政務官として医療、薬事、公衆衛生等の厚生分野を担務させていただく中で、現在、5月8日の類型見直しに向けて、感染や医療の現況等も踏まえつつ慎重な議論を進めております。改めて、ここに至るまでの現場の先生方の献身的かつ弛まぬご尽力に心より感謝を申し上げます。

他方、依然として医薬品供給不足の問題と向き合う状況が続き、多くのご負担を強いているところ、たくさんのお声をいただいております。

これまで製薬各社に生産努力を求め、薬局同士の連携や在庫情報の共有などをお願いし、薬価上の対応も行いましたが、安定的な生産と供給を回復させるための道筋は未だ描き切れていないのが実情です。

安定供給のための体制整備を薬業界全体の課題として捉えるとともに、経済安全保障上の観点も踏まえた対応策の検討を続けているところです。

2024年度からの第8次医療計画に関しましては、薬剤師は医薬品の提供に加え、在宅、災害、感染拡大時など「基本方針」に記される全てにおいて期待が寄せられていると理解しております。

新年度は各自治体が地域の実情に応じた計画を策定する時期ですので、是非、各自治体の薬務系および医務系の部局との連携を強めていただき、薬剤師がやり甲斐をもって活躍しやすい環境を互いに創り出していきたいと思っております。

年度当初は、国会対応として衆参両院の各委員会での質疑にて政府の見解を答弁することのほか、G7保健大臣会合に向けた国際会議などが予定されています。

このような中、これからも皆様との接点を大切にしながら、「薬剤師から政策提言」を軸に、薬剤師のため「難局突破」と「政策断行」に邁進してまいります。